厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
神経変性疾患領域における基盤的調査研究班（総合）研究報告書

本態性振戦(重症)に関する研究

研究分担者　古和　久典　（独）国立病院機構松江医療センター診療部長

研究要旨

本態性振戦の中で稀少頻度と推定される「本態性振戦（重症）」の診療の質を高めるため，住民調査，医師調査を実施し，その結果を踏まえて本態性振戦に対するガイドラインを作成中である．

A．研究目的

本態性振戦は，姿勢時や動作時に手指や体の震えを呈することを特徴とするが，同様の震えを呈する疾患は多岐に渡るため，一般医で適切に診断されていることは多くない．本研究では，診療指針の改定版となる「本態性振戦診療ガイドライン」の作成を進めている．

B．研究方法

地域住民を対象とした疫学調査と，医療機関に対する診療状況調査を実施した．

診療ガイドラインの作成にあたり，GRADE システムを取り入れたMinds 2017に準拠することとした．

（倫理面への配慮）

患者の負担や苦痛とならないようにした．

C．研究結果

本態性振戦の有病率は約2%で，その半数以上で家族歴が認められた．また，ある一定の頻度で「振戦のために，就労や日常生活に著しい障害を受けている」難治症例を医師が経験していることが明らかとなった．

クリニカル・クエスチョン案を作成し，各分担担当者を決めて，了承を得た．

D．考察

診療ガイドラインを作成し，本態性振戦，および本態性振戦（重症）の診断基準を整備することにより，現状では十分な治療効果が得られず社会的不利な立場にある本態性振戦（重症）の頻度や病像をより詳細に明らかにしていく必要がある．

E．結論

本態性振戦に対する治療状況は十分満足できるとは言えず，現在ガイドライン作成に取り組んでいる．

F．健康危険情報　なし

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G．研究発表

1．　論文発表　なし

2．　学会発表

古和久典，深田育代，中島健二：本態性振戦の治療に関する全国アンケート調査結果報告（第37回日本神経治療学会総会．2019年11月，東京）

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1．特許取得　なし

2．実用新案登録　なし

3.その他　なし